

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                    |            |  |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 1590101711         |            |  |
| 法人名     | 株式会社ふれあいの杜         |            |  |
| 事業所名    | グループホームふれあいの杜河渡    |            |  |
| 所在地     | 新潟県新潟市東区河渡3丁目14番8号 |            |  |
| 自己評価作成日 | 令和2年4月30日          | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;jgyosyoCd=1590101711-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;jgyosyoCd=1590101711-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a> |
|----------|---|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                  |  |  |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人新潟県介護福祉士会  |  |  |
| 所在地   | 新潟県新潟市中央区上所2-2-2 |  |  |
| 訪問調査日 | 令和2年6月25日        |  |  |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木のぬくもりと花や緑を飾り、ホーム内玄関、リビングと明るく開放的で安らぎのある空間となっています。花や緑がお好きな入居者様も多く、職員と一緒にガーデニングやプランターでの野菜作りをしています。ホーム裏の屋外スペースは日当たりが良い為、入居者様と一緒に天気の良い日は洗濯干しをしたり雑草取りをしています。明るく活動的な入居者様も多く、天候にも配慮しながらも雨の日は傘を差し、毎日のように近所を散歩しています。そのおかげでご近所様と顔見知りになり、挨拶を交わしたり、地域の茶の間にも参加させて頂いています。ホーム内の多目的室を地域の体操サークル場として利用して頂きながら地域住民の方々との繋がりを大切にしています。また、近くのコンビニまでおやつや日用品を買いに出かけたり、外出行事にも力を入れ、気分転換が図れるよう工夫しています。職員も明るく個性的で経験豊富な方が多く、入居者様の意向を伺いながら、入居者様と共に心地よい空間づくりに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○地域住民としての暮らしの実現  
希望があれば、雨の日でも準備をして出かけるという活動的な事業所が商店街の一角に位置している。近所への散歩はコースが決まっており、顔馴染みの住民宅の庭では花壇を見せてもらい、挨拶、会話が自然と生まれている。また、地域のお茶の間に参加し、近隣の傾聴ボランティアを受け入れるなど、住民との交流が図られている。しかし、「干し物の場所に注意を受け、事業所としての地域の一員であることを感じ日々緊張です。」との職員の声も聞かれた。運営推進会議では民生委員、近隣住民、町内会長、近隣店舗からの参加があり事業所状況報告と町内情報の交換が行われている。また町内会に所属し、今年度は町内の災害訓練にも参加した。今後、事業所の避難訓練に地域住民参加の要請も検討している。事業所内には地域住民活動の一室を設け、地域貢献の姿勢がみられるなど、住民の一人として安心できる暮らしの実現に向けた事業所、職員の日々の努力が窺える。

## ○理念の実現を捧げる職員関係

開設当初、職員で「笑顔あふれるあたたかな居場所で、一人ひとりの個性を大切に生きていく」ケアを提供したいと話し合い、環境整備を図ってきた。一人の利用者が笑顔で生活するには一人だけの職員では難しく、目的、目標を見ずえた事業所、職員のチーム力が必要となる。チーム力を発揮するには、チームを構成している一人ひとりの職員の力と相互力、そして一人ひとりの力を発揮し役割を遂行できるよう誘導するリーダー力も必須である。事業所では職員の意見要望をいつでも忌憚なく年2回、全職員対象の外部講師研修を法人が定期開催し、禁止対象の具体的な行為など基礎学習が行われている。また、事業所内では年1回のホーム長による学習会、2ヶ月に1回のユニットミーティングでの事例検討学習が行われている。さらに身体拘束委員会を3ヶ月に1回実施し、職員の「チェックシート」の集計から現場ケアの課題を示し、現場ケアの検討機会としている。発信できる縦横の良い関係性があるという。また意見・話し合いは、利用者の笑顔を実現するためとして意見内容を尊重し、肯定的な検討が行われるという。話し合った情報は掲示し、共通理解を図っている。事業所理念の実現のためにベテラン、新人職員がそれぞれの立場で、役割意識を持ち、意見交換し合える人間関係に努めている努力が感じられた。